

科目責任者 川北 晃司(倫理学研究室)

■ 教育目的

医療を担う上で期待される倫理観を知り、法律をさらに超えた倫理を大切にできる専門職意識(プロフェッショナリズム)を培う。現代における医療倫理の中心には、患者と医療者間の良好な意思疎通と情報提供がある。医療倫理とは、患者と医療者の双方を励まし、高める価値観であることを理解する。【卒業認定・学位授与の方針:YD-①、YD-④、YD-⑤、SD-④】

■ 学習到達目標

1. ヒューマニズム(人間の尊厳)及びその根拠・理由を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)
2. 医療倫理規範及び倫理学理論を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)
3. 薬剤師及び技能者・研究者のプロフェッショナリズム(専門職能者精神)を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)

■ 準備学習(予習・復習)

予習: 日頃から医療とその倫理に関連すると思われるニュースに注目し、可能ならば新聞紙を読む。(20分以上)

復習: 配布物を読み返し、要点をチェックするとともに、気になった箇所を自分で調べてみる。(30分以上)

■ 授業形態

講義

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	導入	ループリック紹介、dissolution of responsibility 事例等	B(1)-①-1
2	最近の医療倫理の話題	最近の医療倫理関連問題事例	A(1)-①-1~2
3	医療倫理参考書紹介	医療倫理とは何であり何であるべきか	A(1)-①-1~2
4	医療倫理の古典(1)	ヒポクラテスの誓いの意義と限界	A(1)-①-1~2
5	医療倫理の古典(2)	ニュルンベルグ綱領、WMA ジュネーブ宣言、WMA ヘルシンキ宣言、WMA リスボン宣言など	A(2)-②-1、-③-1~4
6	倫理学理論・生命倫理原則(1)	倫理学理論と生命倫理4原則の意義と限界、professionalism、インフォームド・コンセント及びアセント	A(1)-①-1~7 A(2)-③-3
7	倫理学理論・生命倫理原則(2)	人間・個人・生命の尊厳とは何か、尊厳の根拠	A(2)-①-1
8	薬剤師倫理の現在(1)	薬剤師行動規範(日薬 2018年)、薬局トリアージ	A(2)-②-1~③-2
9	薬剤師倫理の現在(2)	FIP,APhA,GPhC による薬剤師倫理綱領	A(2)-②-1~③-2
10	医療倫理の問題状況	守秘義務とその例外、QOL の意義と問題など	A(2)-③-3~4
11	早期体験見学の事前学習	処方、調剤、製剤、チーム医療、医薬分業、監査、鑑査、疑義照会などの用語解説	A(1)-②-1、-④-3~4、 A(2)-②-2
12	研究活動に求められる心構え	FFP(科学・研究上の最も重大な不正行為)とは、parafrad とは	A(2)-④-1~3
13	parafrad のもたらす害	水俣病事件から何を学ぶか	A(1)-①-3 A(2)-④-3
14	近年における「薬害」例	制ガン剤イレッサによる著効及び事故事例	A(1)-①-3、-③-5~7
15	補遺	全体のまとめと補足、試験準備	

■ 授業分担者

川北 晃司(No.1~15)

■ 課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック: 質問があれば個別に受け付け、解説・説明をする。

成績評価方法: 期末試験(70%)及び受講状況・授業中のレポート(30%)

■ 教科書

指定なし。

■ 参考書

授業時に紹介予定。